

2021年度ユマニテク看護助産専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人みえ大橋学園 ユマニテク看護助産専門学校 学校関係者評価委員会は、令和4年3月10日に「令和3年度学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和4年3月31日作成
学校法人みえ大橋学園
ユマニテク看護助産専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 今井 可奈子（公益社団法人 三重県看護協会 常務理事）
2. 中谷 三佳（三重県助産師会 副会長）
3. 福田 晶子（三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿厚生病院 看護部長）
4. 岸田 美奈（社会福祉法人ユートピア ユートピア在宅介護支援センター 卒業生）
5. 藤田 泰樹（大橋学園高等学校 校長）
6. 尾崎 郁子（ユマニテク看護助産専門学校 学校長）
7. 堀 重信（ユマニテク看護助産専門学校 看護学科 学科長）
8. 丹羽 律子（ユマニテク看護助産専門学校 助産専攻科 専攻科長）
9. 片山 恵里（ユマニテク看護助産専門学校 看護学科 副学科長）
10. 溝田 智也（ユマニテク看護助産専門学校 事務長）
11. 村瀬 正堯（ユマニテク看護助産専門学校 事務員）

以上 11 名

2. 令和3年度自己評価（令和3年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
<p>(1) 教育理念・目標</p>	<p>【看護学科】 評価：ほぼ当てはまる～当てはまる（平均3.8点、23点／24点） 課題：次年度は刷新したカリキュラムを稼働させ更なる教育活動の充実につなげていく</p> <p>【助産専攻科】 評価：やや当てはまる～当てはまる（平均3点、18点／24点） 課題：行事や入学。実習等の節目に意識的に周知することや、卒業に達成度を確認し、評価につなげる</p>
<p>(2) 教育目標</p>	<p>【看護学科】 評価：ほぼ当てはまる～当てはまる（平均3.5点、14点／16点） 課題：教育目標は理念・目的と一貫性があり実現可能なものである。 しかし、教育目標は十分に達しておらず更なる努力が必要。 改善策：次年度の新カリキュラムを稼働し、常に教員で目標の到達度を確認する</p> <p>【助産専攻科】 評価：やや当てはまる～当てはまる（平均2.6点、10.5点／16点） 課題：継続した教育目標 改善策：同窓会の活用</p>
<p>(3) 教育課程・経営</p>	<p>【看護学科】 評価：ほぼ当てはまる～当てはまる（平均3.9点、78点／80点） 課題：コロナ禍の影響で他職種連携の実施ができなかった 改善策：研究授業・多職種連携にも取り組む環境とシステムの更なる整備を進める</p> <p>【助産専攻科】 評価：当てはまらない～当てはまる（平均3.2点、64.3点／80点） 課題：教員の自己研鑽の環境整備 改善策：オンラインの積極的参加や自己研鑽の時間確保</p>
<p>(4) 教授・学習・評価過程</p>	<p>【看護学科】 評価：ほぼ当てはまる～当てはまる（平均3.6点 32点／36点） 課題：なし 改善策：なし</p> <p>【助産専攻科】 評価：やや当てはまる～当てはまる（平均3.3点、29.4点／36点） 課題：評価結果を活用し、複数教員で評価を行い、より公平性のある評価が可能な基準作成が必要</p>

<p>(5) 経営・管理過程</p>	<p>【看護学科】 評価：ほぼ当てはまる～当てはまる（平均 3.7 点 96 点／104 点） 課題：個人情報保護 改善策：USB、ハードディスクの利用からクラウドの利用へ移行</p> <p>【助産専攻科】 評価：当てはまらない～ほぼ当てはまる（平均 2.9 点、74.8 点／104 点） 課題：意思決定システムや決定事項、財政面等、公表はされているが、教員周知に至っていない 改善策：教員会議等で周知徹底していく</p>
<p>(6) 入学</p>	<p>【看護学科】 評価：当てはまる（平均 4.0 点、12 点／12 点） 課題：なし 改善策：なし</p> <p>【助産専攻科】 評価：やや当てはまる～当てはまる（平均 3.1 点、9.4 点／12 点） 課題：なし 改善策：なし</p>
<p>(7) 卒業・就職・進学</p>	<p>【看護学科】 評価：ほぼ当てはまる～当てはまる（平均 3.7 点、22 点／24 点） 課題：個々の卒業生への支援体制 改善策：個々ではなく、支援体制を統一していく</p> <p>【助産専攻科】 評価：当てはまらない～当てはまる（平均 2.7 点、16.4 点／24 点） 課題：ゼミ担当教員による個々の卒業生への支援 改善策：学校や同窓会等組織化</p>
<p>(8) 地域社会/国際交流</p>	<p>【看護学科】 評価：やや当てはまる～当てはまる（平均 3.2 点、19 点／24 点） 課題：留学生の受入体制に関して実績がない 改善策：外国の文献、インターネットの活用など環境を整える</p> <p>【助産専攻科】 評価：当てはまらない～ほぼ当てはまる（平均 1.6 点、9.6 点／24 点） 課題：地域連携は周産期に限定されがちであり、地域発信も学園内にとどまっている 改善策：他職種連携の積極的参加やインターネットを利用した情報発信</p>
<p>(9) 研究</p>	<p>【看護学科】 評価：やや当てはまる～当てはまる（平均 3 点、9 点／12 点） 課題：コロナ禍のため自制した 改善策：オンラインの更なる活用</p> <p>【助産専攻科】 評価：当てはまらない～やや当てはまる（平均 1.3 点、4.1 点／12 点）</p>

	<p>課題：学習、研究活動の時間確保</p> <p>改善策：業務のスリム化とともに学生とのゼミナール活動や学会への入会、研修会への参加を継続し、自己の専門性を高めて研究活動につなげていく</p>
--	---

3. 令和3年度 学校関係者評価（令和3年度の自己評価についての評価）

項目	評価・課題
<p>(1) 教育理念・目標 「教育理念・目的は法的整合性と独自性があるか。」</p>	当てはまる
<p>(2) 教育目標 「教育目標は、理念・目的と一貫性があるか。」</p>	<p>ほぼ当てはまる</p> <p>卒業後の継続教育を実施しいただきたい。 病院も、院内だけではなく、外でもできる e-ラーニングも取り入れて自己学習できる環境を整えている。</p>
<p>(3) 教育課程・経営 「教育課程は看護学の内容・求める学習の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成されているか。」</p>	当てはまる
<p>(4) 教授・学習・評価過程 「授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生の学習成果を考慮して科目が配置されているか。」</p>	当てはまる
<p>(5) 経営・管理過程 「養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示しているか。」</p>	<p>ほぼ当てはまる</p> <p>コロナ禍で避難訓練等の実施が難しい状況であるが、常に防災意識を持つ必要がある。</p>
<p>(6) 入学 「教育理念・目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べているか。」</p>	当てはまる
<p>(7) 卒業・就職・進学</p>	ほぼ当てはまる

「卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っているか。」	研究として臨床をあげるためにも、お力添えいただきたい。
(8) 地域社会/国際交流 「地域社会との連携に向けて、地域のニーズを把握しているか。」	ほぼ当てはまる 留学生の受け入れ体制は難しい状況ではあると思うが、更なる地域交流を深めていただきたい。
(9) 研究 「教員の研究活動を保証（時間的、財政的、環境的）にしているか。」	ほぼ当てはまる 看護協会でもオンラインの導入が進み、有効活用している。内容によっては対面が望ましい研修があるが、更なる有効活用が望ましい。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	全体的に、自己評価では、ほぼ当てはまる～当てはまるのレベルである。今後は、評価の中で抽出された課題などについては工夫改善を重ねるとともに、委員の方より多数のご意見や参考になる情報を反映し、きめ細かな学校運営を目指していく。